

Title	戦後世界ノ文明 (大禮記念號)
Author(s)	河上, 肇
Citation	經濟論叢 (1915), 1(5): 217-236
Issue Date	1915
URL	<a href="https://doi.org/10.14989/126918">https://doi.org/10.14989/126918</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

經濟論叢

大禮記念號

京都帝國大學  
法科大學  
京都法學會

# 戰後世界ノ文明

教授 法學博士 河 上 肇

一 今後ノ歐洲諸國

二 米國ノ將來

三 猶太人及ビ日本人

本論題シテ戰後世界ノ文明トイフモ、論述ノ範圍ハ專ラ之ヲ人種構成上ノ關係ニ限定セントスルモノデアル。言フマデモナク、文明ノ Träger ハ人デアツテ見レバ、茲ニ論ズル所ガ最モ主ナル問題ノ一タルハ疑ナケレドモ、決シテ問題ノ全部ヲ盡スモノデハ無イ。論ヲ始ムルニ當リ、特ニ此事ヲ明記シ置ク。

## 一 今後ノ歐洲諸國

歐洲ノ主ナル國々ハ今ヤ學テ今回ノ大戰ニ參加シ、頻リニ其國民ノ血ヲ流シツツアル。其死傷者ハ今日マデノ所ニテ既ニ未嘗有ノ數ニ達シテ居ルガ、今後戰爭ガ續

ケバ續クホド其數益々多キヲ加フベク終ニハ如何ナル莫大ノ數ニ達スベキカ、只今ノ所豫想スルコトモ出來ヌ有様デアアル。余ハ之ヲ以テ歐洲文明ニ對スル未嘗有ノ大打撃ト爲シ、是ガ爲戰後歐洲ノ文明ハ一大頓挫ヲ爲スニ至ル可シト憂フル者デアアル。

元來戰爭ノ準備ノ爲ノ費用(即チ軍備費ナルモノ)ハ、今日既ニ非常ナル巨額ニ達シ、是ガ爲戰爭ト云フ大キナ人食ヒ鬼(The great ore)ハ寢テ居ル時モ醒メタ時ト同ジヤウニ食リ食フ』ト稱セラレテ居ルガ併シ其ハ軍備費ノ甚ダ大ナルコトヲ高調セシ爲ニ云ツタコトデ、此鬼ガ今日ノ如ク愈々眼ヲ醒マシテ咆哮スルコトニ爲ルト、是ガ爲ニ費ユル費用ハ、又更ニ莫大ナモノデアアル。扱テ其莫大ナル費用ハ、到底今日ノ國民ガ直ニ之ヲ負擔スルコト能ハザル故、大部分ハ公債ノ形ニ於テ其負擔ヲ後世子孫ニ遺スコトト爲ル。思フニ今回ノ戰爭ニ、本ク是等經濟上ノ損害ハ、實ニ驚クベキ額ニ達スルコトデ有ラウ。併シ之ニモ増シテ更ニ恐ル可キ損害ハ、此戰爭ト謂フ人食ヒ鬼ガ眼ヲ醒マシテ來ルト、平生眠ツテ居ル時ニ只金ヲ食フダケノ者デアツタノガ、盛ニ生キタ人間ヲ食ヒ出スト云フコトデアアル。而シテ此生キタ人間ヲ食フト云フコトハ、之ニ依ツテ其子孫ヲ絶ヤス限リ、單ニ一人ノ人ヲ殺スノデハ無ク

テ、實ニ同時ニ其子孫ヲモ併セ殺スノデアル。ソガ後世ニ及ボス影響ハ、其趨公債ニ  
 類シテ其害ハ遙ニ恐ル可キモノガアル。嘗テベンじやみんふらんくりんガ Wars are  
 not paid for in war time: the bill comes later \* (戦争ノ代價ハ戦時中ニハ來ヌ、書付ケハ後  
 カラ來ル)ト云ツタノハ、畜ニ經濟上ノ代價ノミナラズ、又血液上ノ代價ニモ當嵌マ  
 ル言葉デアル。蓋シ生殖期ニ於ケル青年及ビ壯年ハ、次ノ時代ニ於ケル國民ノ父タ  
 ルベキ人々デアル。然ルニ戦争ナルモノハ、是等青年及ビ壯年ノ中特ニ強壯ニシテ  
 勇敢ナル人々ヲ選ンデ之ヲ殺シ、其子孫ヲ絶ヤスモノデアル。嘗テしるれるハ Der  
 Krieg verschlingt die Kosten (戦争ハ最上ノ人ヲ食リ食フ)ト云ツタト云フガ、詩人ノ一句  
 誇張ニ似テ實ハ大ニ玩味スベキ價值ガアル。先ヅ之ヲ徵兵制度ノ行ハレツツアル  
 國ニ就イテ考マルニ、軍隊ニ徵集セラルル壯丁ハ、縦ヒ最上部類ノ人ノミデハナク  
 トモ、少クトモ平均以上ノ者デアツテ、最劣等ノ者デ無イ事ハ確デアル。而シテ此中  
 ニハ、智力ノ點ニ於イテモ最優等ノ部類ニ屬スル者ガ少カラズ包含サレテ居ルガ、  
 殊ニ體力ノ點ニ於イテハ、疑モナク最優等ノ部類ニ屬スル者ガ盡ク包含サレテ居  
 ル譯デアアル。サレバ戦争ニ依ツテ斯カル人々ノ子孫ヲ絶ヤスト云フコトハ、取リモ  
 直サズ國民ノ組成分子中比較的ニ善キモノヲ間引クト云フコトデアアル。善イ種子

\* David Starr Jordan, War and Waste, 1913, p. 40. = 引ク所。

ヲ間引イテ惡イ種子バカリ殘スコトニ依リ、國民ガ益々盛ニナルト云フコトハ、固ヨリ在リ得ベカラザルコトデアアル。人或ハ、徵兵制度ノ行ハレ居ラザル英國ノ如キニ在ツテハ、此ノ如キ損害少カルベシト云フカモ知レヌガ、事實ハ寧ロ其ト反對デアアル。勿論已ムヲ得ズシテ入隊スル失業者ノ群モ混入シテハ居ルガ、何等ノ強制ナキニ係ラズ進ンデ國難ニ殉セントスル人々ノ、最モ尊重スベキ國民ノ構成分子ナルコトハ、言ヲ俟タザル所デアアル。サレバ戰爭ハ最上ノ人ヲ食フト云フしるれるノ言ハ、徵兵制度ノ國ニ於ケルヨリモ、寧ロ志願兵制度ノ國ニ於イテ適切ダト謂ハナケレバ爲ラス。是ノ故ニ余ハ、戰後ニ於ケル歐洲文明ノ前途ヲバ甚シク悲觀スルモノデアアル。

思フニ古來諸民族興亡ノ原因ハ元ヨリ一ニシテ足ラズ。然リト雖モ、戰爭ニ依リテ有爲ノ青年及ビ壯年ヲ一時ニ失フコトガ、其最モ有力ナル原因ヲ爲セル場合多キコトハ、歴史ヲ讀ム者ノ皆看取シ得ル所デアアル。古代ノコトハ今姑ク舍ク。試ニ之ヲ近世ニ於ケル西歐諸國興廢ノ跡ニ就イテ見ルニ、吾人ハ國家百年ノ長計ノ爲、大ニ自ラ鑑ムベキモノアルヲ發見スル。抑々近世資本主義的生産ノ組織ガ、最モ早ク西歐諸國ニ發達スルニ至リタル原因ノ一ハ、是等ノ諸國ニ於イテ巨大ナル資本ノ急

激ニ集積サレタルノ事實ニ存スルガ、扱テ此ノ如キ資本ノ集積ノ容易ニ行ハレタル最モ重ナル原因ハ、早クヨリ是等ノ諸國ガ殖民地ノ獲得ニ從事シタルガ爲デア  
ル。蓋シ是等ノ諸國ハ到ル所ニ於イテ殖民地ヲ獲得シ、而シテ其ノ獲得セシ殖民地  
ニ於イテハ、或ハ軍事的掠奪ニ依リ、或ハ掠奪ニ等キ不法ノ貿易ヲ強ユルコトニ依  
リ、或ハ土人ヲ酷役スルコトニ依リ、他人ノ勞働ノ結果ニ成レル剩餘生産物ヲ絶  
エズ掠奪シ吸收シテ以テ、常ニ巨大ノ利得ヲ貪リ、カクテ容易ニ巨大ナル資本ノ集  
積ヲ成スニ至リシ者デアアル。乍併、彼等ガ此有力ナル富源ノ獲得ノ爲ニ費セシ血液  
上ノ損害ハ、又實ニ莫大ナモノデアツタ。現ニばたびあニハ百萬ニ近キ和蘭人ノ墳  
墓ガ殘ツテ居ルト云フ。<sup>\*</sup>カクテ美シキ花ハ咲キ、豊カナル實ノ結バレ居タル頃ハ、  
既ニ其根ノ大半ガ切斷サレテ居タ時ナノデ、先ヅ興リシ西班牙、葡萄牙、和蘭ノ諸國  
ハ、相次イテ現ニ見ル影モナキ有様ニ陥リツツアル。私ハ嘗テ獨逸領ヨリ和蘭領ニ  
入リタル時、國境ト云フハ名ノミニテ、川一ツ山一ツナキニ係ラズ、軍人ノ體格風采  
遽ニ一變セシニ驚キシモノデアアル。當時余ハ百冊ノ史書ヲ繙キシシニモ、優ル強キ印  
象ヲ得テ、竊ニ國家ノ盛衰興亡ノ由ル所アルニ感ジタ者デアアル。

西班牙、葡萄牙、和蘭ノ諸國ハ、既ニ其精英ヲ絞リ盡シテ、今ヤ次第ニ衰亡ニ傾キツツ

\* David Starr Jordan, The Blood of the Nation. 1906, p. 61.

アル。歐洲文明ノ前途ヲ論ズルニ當リ、今日何人ト雖モ是等ノ諸國ヲ眼中ニ入ルル者ハアルマイ。然ルニ今回ノ大戰ニ當リ、是等敗殘ノ諸國ノミ纏ニ戰爭ノ慘禍ヲ免レテ、今正ニ盛ナル英佛獨ノ諸國ガ其主戰國トシテ、互ニ全力ヲ傾ケツツ、相互ニ生死ノ戰ヲ敢テシツツアルト云フコトハ、歐洲文明ノ前途ノ爲、實ニ悲ムベキコトデアル。

獨逸モ決シテコレマデ平和ノミ續イタ國デハ無イ。現ニ三十年戰爭ノ時ニハ、人口ハ千六百萬ヨリ六百萬ニ減ジタトサヘ稱セラレテ居ル。乍併、近時ノ獨逸ハ military デハアツテモ決シテ *political* デハ無カツタ。他ノ西歐諸國ト異リ、殖民地獲得ノ爲ニ血ヲ流サズ、從ツテ僅カ四十年前マデハ歐洲一ノ貧國デアツタ代リニ、其軍隊ノ強キコトニ於イテハ、今正ニ歐洲一デアアル。豈啻ニ軍隊ノミナランヤ、科學ノ方面ニ於イテモ、又產業ノ方面ニ於イテモ、近時實ニ驚クベキ發展ヲ遂ゲツツアツタ。然ルヲ何事ゾ、昨年以來諸國ヲ相手ニ生死ノ大戰ヲ開イテ、今ヤ頻リニ壯丁ノ血ヲ異國ノ山野ニ流シツツアル。余ヲ以テ見レバ、之ハ非常ナ失策デアツテ、畢竟彼等ハ餘リニ成效ヲ急イダモノデアアル。縱ヒ勝算歷々タルモノガ有ツテモ、多望ノ前途ヲ有スル獨逸ハ、此際深ク劔ヲ藏メテ、如何ナル事アリトモ其有爲ノ壯丁ヲ砲彈ノ的トスベ



キデハ無カツタ。之ヲ敢テシタノハ、實ニ國家百年ノ大計ヲ根本的ニ過ツタモノデア  
ル。今彼等ガ此度ノ大戰ヲ以テ生死ノ戰ナリト謂フ所以ハ、勝デハ興リ負クレバ  
衰フト爲スガ爲デアラウガ、余ノ見ル所ニ依レバ、縱ヒ如何ナル勝利ヲ收メ得ルモ、  
若シ是ガ爲ニ壯丁ノ血ヲ流スコト餘リ甚キニ過グルナラバ、勝ツモ猶衰フルヲ免  
レザルベキモノデアアル。世人ハ、獨逸ガ若シ勝ツナラバ、今後獨逸帝國ハ非常ナ勢ヲ  
以テ勃興シ、其學問及ビ産業モ亦益々恐ルベキ進歩ヲ爲スニ至ルベシト考ヘテ居  
ルラシク見エルガ、ソハ今回ノ戰爭ガ史上未ダ曾テ有ラザル大戰ニテ、相互壯丁ツ  
戰死實ニ算ナキ有様ナルコトヲ忘レタルモノデアアル。固ヨリ余ハ、茲ニ五年十年ノ  
將來ヲ論ジツツアル者デハナイ。三十年五十年ノ未來ノ爲ニ、獨逸ノ前途ヲ悲觀シ  
ツツアル者デアアル。

既ニ獨逸ノ前途ヲ悲觀セル余ハ、同ジ理由ニ依ツテ英佛二國ノ前途ヲモ樂觀シ能  
ハザル者デアアル。歴史ノ傳フル所ニ依レバ、カノなほれをん戰爭ノ爲亡ビタ人ノ數  
ハ四百萬ト云フコトデアアルガ、其當時最モ多クノ割前ヲ出シタ者ハ實ニ佛蘭西デ  
アツタ。近時佛國ノ國勢ノ振ハザル、其原因ノ大半ハ茲ニ歸スベキモノダト思フガ、  
此大負傷者ガ更ニ再ビ今回ノ大戰ニ參加シテ最後ノ血ヲ絞ルト云フコトハ、世界

ノ文明ノ爲ニ悲ミテ餘リアルコトデアアル。佛國ガ果シテドレダケノ打撃ヲ受クルカト云フコトハ、愈々戦局ガ終結ヲ告ゲテ其戦死者數ノ確定スルノ日ヲ俟タナケレバ、何トモ最後ノ判斷ハ爲シ兼ヌルガ、或ハ終ニ西班牙、葡萄牙ノ如キ國柄ト爲リハセヌカ。甚ダ氣遣ハシキ次第デアアル。

然ラバ英國ノ將來ハ、如何デアアルカ。思フニ少クトモ今日迄ノ形勢ニ依レバ、此大戦ノ爲ニ英國ノ蒙ルベキ生命ノ損害ハ、前ニ述ベシ獨佛二國ニ比シテ遙ニ少イヤウデアアルシ、又自國民ノ血ヲ儉約スル爲ニハ、出來得ル限リノ方便ト、智恵トヲ廻ラシテ居ルヤウデアアルカラ、此戦亂ノ爲ニ生ズル打撃ハ、或ハ獨佛二國ニ比シテ餘程少クテ濟ムカモ知レヌガ、併シ考ヘテ見ルト、此國ガ今日ノ如ク、其領地内ニ太陽ノ没スル日ナキマデノ勢力ヲ有スルニ至リシニ就イテハ、從來世界ノ到ル所ニ於イテ少カラズ其國民ノ血ヲ流シタモノデ、既ニ久シキ間太陽ハ英人ノ屍ヲ照ラスコト無クシテ没シタ日ハ無イト稱セラレテ居ル。サレバ近頃此英國ガ次第ニ新興ノ獨逸ニ依ツテ凌駕サレントスルノ形勢ヲ呈シ來リシハ、此漫性的ノ出血ノ積リ積リシ結果ニヤト觀測シテ居ルノデアアルガ、果シテ如何デアアルカ。況ンヤ今回ノ大戦ニ參加シナガラ、猶依然トシテ志願兵ノ制度ヲ固執シ、進ンデ國難ニ殉ズルト云フ最

モ頼母シキ人々ノミヲ寄セ集メテ、之ヲ獨軍ノ砲彈ニ委ネツツアル所ヨリ考フルニ、恐ク其將來ハ必ズシモ引續キ既往ノ如クナルヲ得ヌデ有ラウ歟。之ヲ要スルニ、英獨佛ノ三ヶ國ハ今日マデ歐洲ノ文明、總テ世界ノ文明ヲ代表シテ居タ國々デアアルガ、今ヤ計ラズモ未嘗有ノ大戰ヲ企テ、有ユル智識ト有ユル機械トヲ應用シテ互ニ大規模ノ殺戮ヲ敢テシツツアルカラ、勝敗何レニ決スルニセヨ、彼等ノ代表セシ歐洲ノ文明ハ茲ニ大打撃ヲ蒙リ、一大頓挫ヲ爲スヲ免レザルモノデアアル。

## 二 米國ノ將來

英、佛、獨等歐洲ノ強國ト對峙シテ斬然頭角ヲ表ハセルモノハ米國デアアル。而シテ余ハ、今後歐洲諸國ニ代リ世界ノ文明ヲ代表スルニ至ルベキ國ノ一ハ、或ハ此米國ナルベシト考ヘツツアル者デアアル。勿論余ノ立言ハ、既ニ本論ノ冒頭ニ斷リ置キシガ如ク、專ラ人種的構成ノ方面ニ局限シテノ話デアアルガ、今何が故ニ、余ハ此人種的構成ノ方面ヨリ米國ノ前途ニ望ヲ屬スルカト云フニ、其ヲ明カニスルガ爲ニハ、一應人種混淆ノ結果ニ就イテ其大要ヲ説明スルノ必要ガアル。

余ノ知レル限リニ於イテハ、此問題ニ就キ始メテ一書ヲ公ニセシハラいぶまいや  
 ーデアツテ、其書ハ題シテ『人類ニ於ケル内婚及ビ雜婚』\*ト謂フ。猶其翌年獨逸ニ在  
 ツテハちえんばれん其著第十九世紀ノ基礎\*\*ニ於イテ此事ヲ布衍セシヨリ、此問  
 題ハ頗ル人ノ注意ヲ惹クニ至リシモノデアアル。

らぶまゝやーノ書ハ Allgemeines (概論) 及 ヲ Geschichtliche Belege (史的例證)ノ二篇ニ  
 分レテ居テ、前篇ニ於イテハ一般の議論ガシテアリ、後篇ニ於イテハ埃及及ビ猶  
 太ノ歴史ヲ引イテ前篇ノ議論ノ例證トシテアル。今其議論ノ大要ヲ紹介スレバ次  
 ノ如クデアアル。

『民族間ノ混血ハ其内婚ト同ジ程度ニ、人類文化ノ進歩ニ向ツテ重要ノ因素タ  
 ルベキモノデアアル。狭キ範圍ニ於ケル内婚ナクシテ、即チ内婚ヲ勵行セル指導  
 階級ノ成立ナクシテハ、一定ノ國民内ニ於イテ何等注意スベキ文化ノ進歩ヲ  
 見ル能ハザルト同ジャウニ、若シ混血ニシテ行ハレザランカ、一般人類ノ文化  
 ハ極メテ緩漫ニ進歩スルカ、又ハ全ク何等ノ進歩ナキニ至ルデ有ラウ』

『混血ノ主タル作用ハ、肉體的構造ヲ維持シ性格ヲ變化セシムルニ在ル。之ニ依  
 リテ血液及ビ神經系統ヲ健全且活潑ニ保チ、性格ノ一方ノ極端ニ偏スルヲ妨

\* Dr. Albert Reibmayer, Inzucht und Vermischung beim Menschen. 1897.

\*\* Houstin Stewart Chamberlain, Die Grundlagen des neunzehnten Jahrhunderts. 1898.

グルコトヲ得ル。其働キハ内婚ト正反對デアツテ、即チ内婚ノ結果ハ、性格ノ固定凝結ヲ來シ、一方ノ極端ニ走レル性格ノ養成ヲ助ケ、又肉體的構造及ビ生殖力ヲ弱ムルニ在ル。然ルニ自然ハ凡テ餘リ極端ニ走レル内婚ヲ妨ゲ、常ニ到ル所ニ於イテ中庸ニ加擔シツツアル。内婚ノ勵行ニ依リテ餘リ一方ノ極端ニ走ルニ至レル文明ハ凡テ衰亡スル。斯カル文化ノ代表者ガ、一段低キ文化ノ階段ニ立テルモ而カモ健全ナル民族ト血ヲ混ユル時ハ、最初暫クノ間ハ、其特種ノ國民ノ既ニ到達セシ文化ニ比スレバ一時退歩ヲ示スコトアルモ、混血後ノ子孫ハ既ニ養成サレタル神經節ヲ遺傳スルコトニ依ツテ、速ニ新タナル文化ノ階段ニ上ルコトト爲ル。サレバ内婚ハ文化ノ神經節ノ成立ヲ助クルト同様ニ、混血ハ其普及ヲ助クルモノデアアル。……」

『此ノ如クニシテ新タナル生命ハ常ニ頽廢ノ中ヨリ發芽スル。凡テ文化ノ先驅者ノ運命ハ總テ衰亡ニ歸スベキモノデアツテ、此事ハ只之ヲ一國民ノ利己心及ビ歴史ノ研究者ヨリ見レバ悲ムベキコトデアアルガ、人類全體ノ見地ヨリスレバ却テ喜ブベキコトデアリ、又、自然的歴史ノ必要ニ本クモノト見ナケレバ爲ラヌ。何故ト云フニ、人類ハ只此ノ如クニシテ始メテ絶エズ進歩スルヲ得

ルガ故ニ。<sup>\*)</sup>

之ニ依リテ見レバ、らいぶまいやト意見ニ依ルト、血ヲ混ヘヌト云フコトハ、或特定ノ民族ノ文化ノ成立ノ爲ニ必要デアル、又他ト血ヲ混ゼルト云フコトハ、既ニ進歩シ居レル特定ノ民族ノ文化ノ衰亡ヲ來ス原因トハ爲ルモ、之ト同時ニ其事ハ更ニ廣キ規模ヲ有スル新文明ノ發達ヲ來スノ原因ト爲ルカラ、人類全體ヨリ見レバ却テ喜ブベキコトデアル、此ノ如クニシテ内婚ト混血トノ交替ニ依リ世界ノ文明ハ波ヲ打チツ、進ムト云フノデアル。猶重複ヲ厭ハズちねんばれんノ所論ノ大要ヲ紹介スルナラバ、彼ハ優良ナル人種ノ成立ニ必要ナル條件トシテ、左記ノ五個條ヲ擧ゲテ居ル。

一、先ヅ優等ナル人種ノ存在セルコト。

二、其人種ハ引續キ内婚 Inzucht ヲ勵行セルコト。

三、之ト同時ニ人爲淘汰ノ絶エズ行ハレ居ルコト。

四、元ト人種ノ混合 Blutmischung ニ依リテ成リ立テシ人種ナルコト。

五、但シ其人種ノ混合ハ、若シ其人種ガ餘程遠ツタ型ノモノデアルナラバ、極メテ

短期間ニ行ハレ、其後ハ引續キ嚴重ニ内婚ヲ勵行シ居ルコト。<sup>\*\*)</sup>

\* Reibmayer. S. 70, 71, 72.

\*\* Chamberlain, S. 277-287.

之ニ依リテ見レバ、ちねんばれんノ意見モ前ニ述ベタルらゐまいや一ノ説ト大體同ジヤウニ見エルガ、併シちねんばれんハ血液混合後ニ於ケル内婚ノ勵行ト云フコトニ甚ダ重キヲ置イテ居ルノデアツテ、彼ハ血液ヲ純潔ニ維持スルコトヲ以テ *das heilige Gesetz des Menschwerdens* トナシ *das gewichtigste Geheimnis aller menschlichen Geschichte* モ茲ニ存スト爲シツツアルノデアル。<sup>\*</sup>

猶しゆるつノ意見モ、此點ニ於イテハ略ちねんばれんと同ジデアツテ、或ハ其強サニ於イテ一步ヲ進メテ居ルモノカモ知レヌ。試ニ其議論ノ一節ヲ抄録センニ、彼ハ次ノ如ク述ベテ居ル。

『少シモ移民ヲ受ケ入レヌ國民ハ、遠カラズ内婚ニ依リテ退化スル、ト云フ説ガアル。併シ斯カル危険ハ、千萬以上ノ人口ヲ有スルモノタル限り、如何ナル人種ニ向ツテモ脅テ存在シタコトハ無イ。……之ニ反シ雜婚的混血ハ最モ優良ナル多クノ人種ヲ破壊シタモノデアアル。人種ガ優良デアレバアル程混血ノ爲ニ生ズル退化ノ危険ハ大デアアル。雜婚的混血ハ既ニはみてゐつく人種ヲ破壊シ又せみてゐつく人種ノ主ナルモノヲ破壊シ去ツタ。ソハ印度人、埃及人、希臘人、羅馬人及ピロンばるど人ヲ破壊シ去ツタモノデアアル。』

『内婚ニ依ツテ衰亡シタルガ如キ人種ハ、史上曾テ其例ヲ見ス。否ナ寧ロ之ニ反シ、内婚ヲ勵行シツツアル人種ハ、如何ナル原因ニ依リテモ曾テ衰亡セシモノハ無イ。猶太人ハ種々ノ迫害、苛責、殉難ヲ經テ今猶存續シツツアル。じぶしい人ノ如キハ、何等有利ノ條件ヲ有タザル人種タルニ係ラズ。是レ亦單ニ内婚ニ依リテノミ其衰亡ヲ免レツツアル。英人ハ今日歐羅巴人種中、最モ強キ者デアアル。彼等ハ嘗テ丁抹人、すかんぢなびあ人及ビのるまん人ト血ヲ混ヘタ。併シ是等ノ移民ハ、決シテ洪水ノ如ク多數ガ流レ込ンダモノデハ無イ。加フルニ、彼等ハ皆純粹ノ人種デ、且最モ英人ニ近キモノデアアル。けると人ノ吸收ハ緩漫ニ行ハレタ。のるまん人ノ侵入以來、獨逸、和蘭、ふらんだー地方ヨリけるまん人來リ、又ゆぐのー人モ來リタレドモ、是等ノ移民ハ決シテ多數ニハ上ラナカツタ。彼等ハ吸收サレテ仕舞ツテ、英人ヲ混血兒化スルト云フコトハ無カツタ。カクテ是等混血ノ後、數世紀ニ亘ル内婚ノ勵行ニ依リテ、英人ハ遂ニ歐羅巴人種中最モ強キモノト爲ツタ。』

『獨逸ニ於イテハ人種純潔ノ福音ガ頻リニ說法サレ、教訓サレ、且獨逸人ハ凡テ此神聖ナル法則ニ從ツテ行動シツツアル。歐羅巴ノ獨逸領ニハ今八千萬以上



ノ獨逸人が居ル、——八千萬ノ獨逸人が居ルノデアツテ、單ニ八千萬ノ住民が居ルノデハ無イ、……若シ彼等ガ其血液ノ純潔ヲ維持シ行クナラバ、……  
：彼等ハ遠カラズシテ最強ノ人種タルニ至ルデ有ラウ。』\*

(註重複ヲ嫌フテ省略ニ附シ置キタレドモ近頃邦譯サレタルGeorge Chatterton-Hill, Heredity and Selection in Sociology, 1907. ニモ「ちんばれん等ノ説ト同ジヤウナ議論ガ述ヘテアル。

扱テ以上諸家ノ説ニ就キ、其小異ヲ棄テテ大同ヲ探リ、大體ニ於イテ之ヲ眞ナリト假定セバ、吾人ハ米國ノ將來ニ就イテ果シテ如何ナル立言ヲ爲シ得ルカト云フニ、之ニ就イテハ二様ノ觀察ガ在リ得ルデ有ラウ。即チ一ハ米國ハ各種雜多ナ人種ノ集合所デアツテ、其處ニハ血液ノ混合ガ絶エズ行ハレテ居ルガ爲ニ、遂ニハ混血雜婚ノ弊ヲ受ケテ、其文明ハ終ニ頽廢衰亡ニ歸スベシト爲ス見方デアリ、一ハ此ノ如キ血液ノ大混合ヲ行ヒツアレバ、將來ハ此米國ニ全ク新タナル文明ガ醸成サレテ、遂ニハ從來ノ歐羅巴文明ト全ク其選ヲ異ニスル亞米利加文明ナルモノノ完成ヲ見ルニ至ルベシト爲ス見方デアルガ、今其何レヲ探ルベキヤハ、今後ニ於ケル米國ノ移民政策如何ヲ見テ決定スルノ外ハ無イ。思フニ若シ永久ニ制限ナク各種ノ人種ヲ吸收スルナラバ、今日ノ南米諸國ノ如ク雜婚混血ノ弊ヲ受ケテ、國民ノ體

\* Alfred P. Schultz, Race or Mongrel, 1908. pp. 349, 350.

格體質ハ勿論、風俗モ道德モ政治モ相次イテ頽廢墮落ノ状態ニ陥ルノ外アルマイガ、若シ今ニ及ンデ嚴重ニ内婚ヲ勵行シテ血液ヲ統合スルノ大方針ヲ確立スルナラバ、將來或ハ驚嘆スベキ文明ノ花ガ其豊富ナル富源ニ培ハレテ爛熳タル盛觀ヲ呈スルニ至ルヤモ計ラレヌ。(註) 思フニ戰後文明ノ代表者トシテ注意スベキモノハ、恐ク歐洲諸國ヨリモ此米國デアルデ有ラウ。

(註) 米國ハ今既ニ内婚ヲ勵行セントスルノ方針ニ向ヒツ、アルモノト看做スベキ幾多ノ事情ガアル、此事ハ既ニ十八年前らいぶといヤノ注意シタル所ニシテ現ニ彼ハ次ノ如ク述ベテ居ル。

So war in Amerika durch Jahrhundert eine intensive Vermischungsperiode im Gange. Doch beginnt Amerika sich bereits vom Mutterlande abzuschliessen und es wird in der Zukunft nicht nur zu einer stärkeren Abschliessung für den ganzen Continent, sondern auch zu einer Inzuchperiode für die einzelnen Staaten kommen.\*

### 三 猶太人及ビ日本人

血液混合ノ關係ニ於イテ今日ノ米國ト正反對ノ事情ヲ有スル者ハ猶太人デアアル。即チ今日ノ米國ハ諸種雜多ナル人種ノ集合所タルニ反シ、猶太人ナルモノハ數千年來極端ニ其血液ノ純潔ヲ維持シ來リシ人種デアアル。

元ト猶太人ナルモノハ如何ナル人種ノ混合ヨリ成リシモノナルカ、其研究ハ姑ク

之ヲ舍キ、鬼モ角數千年ノ久キニ亘ツテ嚴重ニ内婚ヲ勵行シ來リシ人種ハ、西半球ニ在ツテハ、此猶太人ヲ措イテ外ニ其例ヲ見ヌガ、之ト同時ニ、古ヨリ今ニ至ルマデ絶エズ世界ノ文明ニ少カラザル貢獻ヲ爲シツツアル人種モ、亦彼等ヲ措イテ他ニ其類例ヲ見ザルガ如キハ、如何ニ人種ノ純潔ヲ維持スルコトガ、其民族ノ文化的發展ト密接ナル關係ヲ有スルヤヲ知ルノ材料トシテ、實ニ吾人ノ注意ニ値スルモノデアル。今其一端ヲ述ベンニ、例ヘバモ一セオヲ生ンダ者ハ此猶太人デアル。而カモ其も一セオハ世界最初ノ共和國ヲ肇メタ人デアリ、其人ノ制定シタ法典ハ、三千年後ノ今日、猶文明諸國法典ノ基礎ト爲リツツアル。又世界最大ノ偉人ノ一タル基督ヲ生ンダモノモ此猶太人デアル。世界最高ノ書籍ノ一タル聖書ヲ生ンダモノモ亦此猶太人デアル。試ニ西洋文明ヨリ斯基督ヲ除キ、斯聖書ヲ除ク時、ソコニ何物ガ殘ルカト考ヘ見ヨ。降ツテ之ヲ經濟學ノ範圍ノミニ就イテ云フモ、りかーどーハ即チ猶太人デアル、かゝるまるくす及ビふえるぢなんどらつさるモ亦猶太人デアル。試ニ英國正統學派ヨリ斯りかーどーヲ除キ、近世社會主義ヨリ斯まるくすヲ除ク時、ソコニ何物ガ殘ルカト考ヘテ見ヨ。英國ノ有名ナル政治家ぢすれりーモ猶太人デアル。始メテ米大陸ヲ發見シタころんばすモ猶太人ノ血ヲ承ケタ人デアル。

始メテ煙草ヲ發見シタルいど、とれ一モ亦猶太人デアアル。

猶之ヲ今日ノ實際ニ就イテ見ルニ、猶太人ノ勢力ハ恐ルベキモノガアル。第一ニ、世界金融ノ權ヲ掌握シツツアル者ハ即チ此猶太人デアアル。現ニ行ハレツツアル大戰ノ費用ヲ賄ヒツツアル者ハ即チ此猶太人デアアル。ろすちやいるどノ名ハ廣ク人口ニ膾炙シ、更メテ指摘スル迄モナイガ、其外倫敦ニ於ケル Montagry, Sassoon, Raphael, Stern 巴里ニ於ケル Camondo, Fould, Perier, Bischoffsheim 伯林ニ於ケル Bleichröder, Warshauer, Mendelssohn 米國ニ於ケル Kuhn, Loeb and Co., Lazard Frères, Seligman 等ハ盡ク猶太人デアアル。又世界百萬長者ノ數ハ四千ト稱セラレツツアルガ、其中百二十五人ハ猶太人デアアル。而カモ世界人口總數十五億ノ中、猶太人ハ僅ニ千二百萬人ニ過ギヌ。以テ財界ニ於ケル猶太人ノ勢力ヲ推知スルニ足ル。

又之ヲ學問藝術界ニ就イテ見ルニ、例ヘバ「サルヴルサン」所謂六百六號ヲ發明シタ故ニ一るりつひ博士ハ即チ猶太人デアアル。音樂界ノ明星タリシわぐな一モ猶太人デアアル。幼稚園ノ創立者タルよせつふうねるとはいま一モ猶太人デアアル。「エスベラント」ノ發明者タルつあめんほ一モ博士モ亦猶太人デアアル。之ヲ法律學者ニ就イテ云ヘバ、近代ニ於ケル最大法學者ノ一人タル獨逸ノねりねつく、佛蘭西ノりおんけ

人、和蘭ノあつせるハ皆猶太人デアル。

此種ノ事例ハ、列舉シ來レバ殆ド際限モナイガ、最後ニ猶一言注意スベキコトハ、此ノ如キ成效ヲ遂ゲツツアル猶太人ナルモノハ、世界ニ自己ノ國家ヲ有セズ、到ル所種々ノ迫害ヲ受ケツツ、纔ニ他人種ノ國家ニ寄生シツツアル者ナルコトデアアル。現在人口數約千二百萬、中九百萬ハ歐洲ニ住ミ、更ニ六百萬ハ露西亞ニ住ミツツアル。又米國ニ在ル者ハ二百萬、亞細亞ニ在ル者ハ四十萬、亞弗利加ニ在ル者ハ三十萬、濠洲ニ在ル者ハ二萬人ト稱セラレテ居ル\*。

此ノ如ク猶太人ナルモノハ今日自己ノ國家ヲ有セザル人種デアアルガ、世界文明ノ將來ヲ論ズルニ當ツテハ、看過スルヲ得ザル一人種デアアル。是レ余ガ特ニ彼等ニ就イテ其一斑ヲ叙述シタ所以デアアルガ、扱テ此人種ノ將來如何ノ問題ハ、一ニ其血液ノ純潔ヲ維持スルコト、今後モ能ク既往ノ如クナルヲ得ルヤ否ヤニ懸ツテ居ル。ふれーざーハ其近狀ニ於イテ、彼等ガ次第ニ他人種ト婚ヲ通ズルニ至リシ事情ヲ列擧シカクテ Their death as a race is as certain as anything can be. …… If the present processes continue, I doubt whether in a couple of hundred years there will be any people who will be Hebrews in the strict sense of the description as we understand it to-day \*\*ト結論シテ居ルガ、二百年後

\* John Foster Fraser, The Conquering Jew, 1915, pp. 10, 11.

\*\* Ibid, p. 291.

ノコトハ姑ク舍キ、余ハ戰後ニ於ケル世界文明ノ一要素トシテ茲ニ此千二百万ノ人口ヲ有スル猶太人ヲ掲ゲ置カントスル者デアル。

論ジ來リテ以上ノ外殘ル所有爲有望ノ民族ハ、最後ニ我日本人アルノミ。然ルニ此日本人ハ、嘗テ神代ノ昔ニ於イテ血液ノ大混合ヲ行ヒ、ソレヨリ以降數千年ノ間久ク血液ノ純潔ヲ維持シ來リシモノニテ、有力ナル人種中カノ猶太人ヲ除キテハ、世界ニ類例ナキ純潔ナル血液ヲ有シツツアル民族デアル。而カモ今日ニ至ルマデ、未ダ基督ヲ出サズ、未ダ聖書ヲ出サズ、學問ニ於イテ藝術ニ於イテ何等誇ルニ足ルベキ貢獻ヲ爲シ得ザリシハ、一ニ境遇ノ未ダ熟スルニ至ラザリシガ爲デ有ラウ。吾人ハ彼ノ猶太人ト同ク純潔ナル血液ヲ維持シツツアルト同時ニ、彼等ト異リ最モ鞏固ナル國家組織ノ下ニ生活シツツアル。思フニ將來其ノ世界ノ文明ニ貢獻スル所ノモノ必ズヤ驚クベキモノガ有ラウ。又アラチバ爲ラス。今ヤ

今上天皇陛下、御即位ノ大典ヲ擧ゲサセ給フニ際シ、末學ノ一書生、國家ノ前途ヲ思フテ、特ニ祝意ノ禁ジ難キモノガアル。乃チ謹デ此文ヲ草シ、之ヲ大典記念號ニ寄スト云フ。